

公立大学法人金沢美術工芸大学
令和5年度業務実績報告書
論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

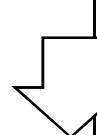
(1) 教育内容等に関する目標

中期目標	学部教育では、汎用的な教養と専門的な芸術の理論、技術及びその応用の教育を通じて、美術・デザイン・工芸の発展に寄与する人材を育成する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号	
(ア) 学部の教育課程編成・実施方針に基づく教育課程を編成し、これに相応しい教育を実施する。	(ア) 新キャンパス移転を機に、更なる学部教育の充実を目指し、教育組織の改編やカリキュラムの変更等を行う。	<p>○10月より共通工房を有効に活用した授業を開始するとともに、2月末の教務委員会で複数専攻間での調整を行い、6年度の1年間を通しての授業に備えた。</p> <p>○新キャンパスに移ったことにより、当初予想されていた以外の不具合もあり、教育上の施設面での問題点を教務委員会を中心にで情報共有し、原因究明に務めるとともに、解決できるところから順次解決し、授業の継続に支障が出ないように全学をあげて取り組んだ。さらに、今後取り組むべき課題を明らかにした。</p> <p>○5年度からホリスティックデザイン専攻とインダストリアルデザイン専攻の2専攻に新入生を迎えるとともに、これまでの3専攻体制の教育との調整、1年生と上級生の交流を図った。</p> <p>○5年度から工芸科は収容定員20名から30名に増やしたことにより、充実した教育を実施できるようにカリキュラムの調整を行った。</p> <p>○全学的に学生の学習状況に合わせてカリキュラムの一部改正を行い、それに合わせた学則変更等を行った。</p>	IV		1-1 1-2	1

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。



〔次頁へ〕

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容等に関する目標

中期目標	学部教育では、汎用的な教養と専門的な芸術の理論、技術及びその応用の教育を通じて、美術・デザイン・工芸の発展に寄与する人材を育成する。				
中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕 ※前頁より 移転後、実際に新キャンパス施設の運用を開始したところ、例えば、アートコモンズA(展示スペース)の場合は、天井が高く学生が照明器具を扱うには危険性が高いといった安全部面での課題を発見し、また、教室においては照明や日の差しこみ具合によってプロジェクターを使った授業で画面が見づらいといった問題などを発見した。 教務委員会において情報共有と原因の究明を行い、アートコモンズA用の高所作業車、それにもつわる備品等を急遽購入し、対処したほか、各教室にブラインドを追加設置するなど、大小さまざまな課題を全体で共有しながら優先順位をつけて解決を図ることで、事故等の発生を未然に防ぐとともに、快適な学習環境を迅速に整えた。 今後も計画的に施設整備を行うことで教育環境のさらなる充実を図るため、6年度以降に改善すべき施設面での課題等をとりまとめた。					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

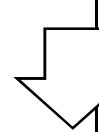
中期目標	教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏ました教育組織の改編・改革を行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ア) キャンパス移転に伴い、教務システムのオンライン化、大規模な共通工房の開設、憩いの場としての学生共用スペースの充実等、教育環境・学習環境の整備に努め、必要に応じて更新・向上を図る。	(オ) 新キャンパスにおける「共通工房」を管理・運営し、教育・学習を支援する技術系職員の効果的な配置を行う。	<p>○共通工房を管理運営する技術専門員を全15名（工芸エリア5名、彫刻デザインエリア5名、絵画エリア1名、メディアセンターエリア4名）を非常勤職員（うち1名は人材派遣）として配置した。さらに、全学的な運用とするため共通工房長と各エリアを担当する教育研究審議会委員を置き、効果的な運用について恒常に検討できるようにした。</p> <p>○各技術専門員につき1名の相談役教員（オブザーバー）を決め、4月よりその業務を実施できる体制とした。</p> <p>○「共通工房」は全く新しい施設・組織であるため、実際に運用を開始した後に、「共通工房」の管理・運営面から技術専門員の学内の位置づけを明文化したり、各専攻と技術専門員の関係などを検討した。これらの体制を明確にするために、共通工房設置要綱を定めた。</p>	IV		19 19

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのか（年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など）を具体的に説明してほしい。

配置・体制についてはR4年度に構築されているので、R5年度の取組を具体的に説明してほしい。



〔次頁へ〕

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

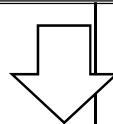
中期目標	教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏まえた教育組織の改編・改革を行う。				
中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕※前頁より 「共通工房」は全く新しい施設・組織であり、0からの仕組みづくりが必要であったため、移転後に実際に運用を開始してから、技術専門員及び教員の意見を集約したうえで、「共通工房」の管理・運営面から技術専門員の学内の位置づけ等を共通工房設置要綱として明文化した。 要綱の制定により体制を明確化するだけでなく、「専攻の枠を超えて自由に利用できる」という共通工房のコンセプトに沿った利用環境を整えるため、各工房に配置された技術専門員の勤務時間と学生の利用時間のミスマッチの解消等を進めている。					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標	多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(I) キャンパス・ハラスメントに関する学生への教育と教職員の研修を行うとともに、防止体制を検証し、発生防止を徹底する。	(I) ハラスメントに関する学生への教育と教職員研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○学生便覧の「金沢美術工芸大学キャンパスハラスメントガイドライン」を年度初めの学生ガイダンスにおいて全学生に周知し、キャンパス・ハラスメントに関する理解の促進を図った。 ○新任教職員を対象に初任者研修を開催し、研究倫理規程、キャンパスハラスメントガイドライン、障害を持つ学生への支援を含む学生との接し方について、学長及び担当職員から指導を行った。 ○5月に「表現の現場調査団：教育機関用リーフレット」を全学生に配布した。 ○8月に全学生、全教職員向けに「ハラスメント研修会ハラスメントを防ごう」を外部講師の中川真由美氏によりオンラインで行った。【再掲28】 ○2月28日に全教員に「キャンパス・ハラスメント対策ガイドブック」を配布し、ガイドブックを活用しFD研修を行った。【再掲28】 ○新たに弁護士と顧問契約を結ぶことで、ハラスメントをはじめとした相談等に常時法律的な助言を受けることができる体制を整えた。 	IV		37-1 37-2 28-2

〔質問・意見等〕
 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。



〔回答〕
 キャンパス・ハラスメントに関する集合研修だけでなく、図書を全教員に配布することで、自学による理解の深化を促した。
 また、新たに弁護士と顧問契約を結ぶことで、ハラスメントをはじめとした相談等に常時法律的な助言を受けることができる体制を構築した。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

(1) 研究内容等に関する目標

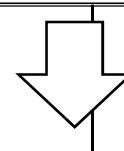
中期目標	芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 金沢をはじめとする地域文化について、工芸の継承と発展など本学独自の視点による調査・研究に取り組む。	(イ) 「平成の百工比照」収集作成事業として、漆工・陶磁・染織・金工の各分野の収集・整理を進め、金沢の地域文化の発展に資する研究に取り組む。	<p>○本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のために、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させる研究に取り組んでいる。</p> <p>○4年度に引き続き、国立民族学博物館との連携協定に基づき、「平成の百工比照コレクションデータベースを基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証した。社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」を推進した。3年度の1回目に続き5年度では3回目の高等教育教材（映像）の制作を行った。本映像は、平成の百工比照コレクションの成り立ちや活用方法までを説明するもので、全国の博物館学芸員課程で活用できる貴重な資料となった。3年度「平成の百工比照 金沢が進める日本の工芸技術継承プロジェクトの背景」4年度「平成の百工比照 文化資源としての意義とデータベースが開く可能性」5年度「平成の百工比照 コレクションの保存と活用」</p> <p>○従来の一般公開に留まらず、専門的な研究者や民間の産業従事者がデータベースを駆使し、新たな技術研究や製品開発を行うなど、「平成の百工比照」を産業分野においても活用できる環境整備を目指している。10月のキャンパス移転に伴い、新設された美術館・図書館棟内に、平成の百工比照展示室を開設した。全資料を対象とする検索システムと連動することで充実した施設として稼働している。</p>	IV		21-1 50

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。

各年度の収集実績やR5年度の新たな取り組みを具体的に説明してほしい。



〔次頁へ〕

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

(1) 研究内容等に関する目標

中期目標	芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。
------	---

〔回答〕※前頁より

5年度は、広瀬絣(ひろせがすり)、弓浜絣(ゆみはまがすり)、有田焼絵付見本、有線七宝工程見本等、94点を収集し、染織や陶磁分野の資料を充実させた。

5年度に作成に取り組んだ高等教育教材(映像)も、新キャンパスの「平成の百工比照コレクション」コーナーにおける展示や、さらには本学のみに留まらず全国の博物館過程で活用できる質の高い資料となっていることに加え、新キャンパスに新設した美術館・図書館の検索システムとも連動させることで、研究成果を披露する場面の拡充にも努めたことから、3・4年度に引き続きIV評価とした。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

(1) 研究内容等に関する目標

中期目標	芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ウ) 本学が取り組む研究の成果を蓄積し、積極的な発信に努める。	(I) 新キャンパスの美術館・図書館において「平成の百工比照」コレクションを広く市民に公開するとともに、データベースの充実やキャプションの翻訳等に努め、国内外へ向けた情報発信に取り組む。	○工芸の技法、制作工程、材料に関わる見本や道具類、完成した製品などが分野ごとに納められており、来場者が棚から自由に取り出し閲覧できる常設コーナーを新設した。また加賀象嵌、蒔絵、九谷焼、加賀友禅の制作工程を高精細の4K画質で撮影した工芸技術記録映像を視聴できるスペースを設置した。収集された見本や工程と映像をリンクした方式をとる事で閲覧者の理解を深める場として公開している。	IV		21-1

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。

国内外に向けた情報発信につながった取組について具体的に説明してほしい。

〔回答〕

新キャンパス移転を機に「開かれた大学」であることを積極的にPRすると同時に、美術館・図書館で企画展を開催することで館への集客力を高ると同時に、平成の百工比照閲覧コーナーについては映像視聴コーナーと併せて、実物を自由に取り出して見ることのできるコーナーを設置することで、閲覧者の理解を一層深める効果的な発信を行った。本コーナーは10月から3月の半年間で1,798人が来場するなど、常設コーナーとして高い注目を集めた。また、金沢市の姉妹都市であるベルギー・ゲント市長や韓国・全州市長の視察受入の際に当コレクションや展示コーナーを紹介するなど、国外へ向けた発信にも積極的に取り組んでいる。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

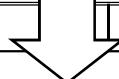
(2) デジタル化に関する目標

中期目標	デジタル化に対応した教育環境・学習環境を整え、専門分野にデジタル技術を活用できる人材を育成する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ア) 新キャンパスにおいて、デジタル化に対応した教育環境・学習環境や研究環境を整備することで、大学全体のDX化に努める。	(ア) 新キャンパスにおいてデジタル化に対応した教育環境・学習環境や研究環境を整備することを踏まえ、大学全体のDX化に努める。	○4年度後期から、新たな教務システムを導入し教員による成績入力を行えるようにしたが、5年度は、Webでの学生による履修登録を行えるようにし、業務の効率化を図った。また、これにより、学生はWebで随時自身の履修状況、成績を確認することができ、自身の学習をより主導的に進めることができるようになった。また、教職員等の相談の場面ですぐに確認ができるため、指導がスムーズに進めやすくなり、教育環境も向上した。 ○新たな教務システムを通して、教室等の予約がWebで簡単にできるようになり、授業の柔軟な対応ができるようになった。 ○新教務システムの導入に伴い、現在運用しているKANABI-Portalの整備、活用方法等についても併せて検討を進めるなど、これまでの方法との調整を随時行った。	IV		84

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など)を、新教務システムとKANABI-Portalの関係性を整理して具体的に説明してほしい。



〔回答〕 従来使用していたLMS(学習管理システム)であるKanabi-Portal(Google Workspace for Education)で有用なClassroomやドライブの使用を講座管理の機能として残しつつ、受講者管理や履修管理といったLMSの機能は新教務システム(Campus-Xs)のポータルサイトに移行し、教育環境の向上を図った。また、新教務システムのポータルサイトも、本学の教育課程に沿うように表示を対応させ、従来のポータルサイトでのお知らせに加え、教職課程やキャリア支援等の情報を学生が取得しやすいよう改修した。 一括してすべてを新システムに移行するのではなく、学生や教員が使い慣れた従来システムの有用な機能を残しつつ、新システムを組み合わせたことで、スムーズな導入とシステム全体の強化、利便性の向上を両立させた。

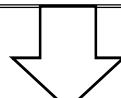
その他業務運営に関する重要目標
2 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標	教育組織の改編とキャンパス移転を踏まえて施設設備を整備し、良好な教育研究環境の維持向上に努めるとともに、その有効活用を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ア) 新キャンパスへの円滑な移行を念頭に、計画的な施設整備を実施する。 (イ) 移転後も常時、教育研究環境を検証し、維持向上に努めるとともに、学内規則に基づく有効活用を図る。	(ア) 施設設備に関する計画的な管理を行い、新キャンパス移転後も常時、教育研究環境を検証し維持向上に努める。	○限られた予算の中で、移転前の修繕は必要最小限にとどめ、移転後は、実際に授業等も進めながら、必要と思われる備品等について優先度や費用対効果を検証し、整備するなど教育研究環境の充実を図った。	IV		

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR5年度に拡充した部分など)具体的に説明してほしい。



120

〔回答〕

移転後は、各専攻等から寄せられた150箇所を超える要望についてとりまとめ、10月～3月の限られた期間内ですべての個別案件について市と協議し、連携して対応を進めたほか、令和6年能登半島地震による緊急の設備点検や必要な補修について最優先で対応を行い、学生・教員が安全に大学施設を利用できる環境を迅速に整えた。

--	--	--	--	--